

# 会長の時間 第1回

## 「四つのテスト」の意味

日出ロータリークラブ  
会長 加賀山 茂

### はじめに

本年度の第1回目の「会長の時間」がやって参りました。皆さま、覚悟されておられるとは思いますが、私の話は、長くて難しくて、眠たくなる方が多いようです。そこで、皆さまが眠たくならないように、今日のゲストの別府 RC, 別府東 RC および別府中央 RC の皆様をも巻き込ませていただき、質疑応答を交えながら、スピーチををさせていただくことにします。

さて、今日のテーマは、月初めに私たちが必ず唱和する、ロータリアンとして身につけるべき「言動のチェックリスト」、すなわち、「四つのテスト」について、その意味を明らかにしたいと思います。

ところで、何かの意味を明らかにするためには、空間・時間的対比等の様々な対比、および、全体構造を明らかにする必要があるとされています。

そこで、今回は、「四つのテスト」について、第1に、日本語と英文との対比、第2に、「四つのテスト」とは、正反対の考え方（「儲けさえすればよい」との対比、第3に、ホルーガー・クナーク RI 会長のテーマ「ロータリーは機会の扉を開く」の三つの扉との関連において、「四つのテスト」の全体構造を明らかにしたいと思います。



### 1. 日本語と英語との対比

「四つのテスト」の意味を明らかにするために、最初に、国際ロータリークラブが採択している英文と、日本ロータリークラブが採用している日本語の比較から始めたいと思います。

| 日本語              | 英語  |
|------------------|---|
| 言行はこれに照らしてから     | Of the things we think, say do                    |
| 1. 真実かどうか        | 1. Is it the TRUTH?                               |
| 2. みんなに公平か ←公正か  | 2. Is it FAIR to all concerned?                   |
| 3. 好意と友情を深めるか    | 3. Will it build GOODWILL and BETTER FRIENDSHIPS? |
| 4. みんなのためになるかどうか | Will it be BENEFICIAL to all concerned?           |

第1文、第3文～第4文までは、きれいな日本語になっていると思います。しかし、第2文「みんなに公平か」は、英文「Is it FAIR to all concerned?」と意味が、少しばかりずれているように思います。

そこで、法律に詳しい弁護士の西馬・別府中央 RC 会長に質問させていただきたいと思います。

**加賀山茂・日出 RC 会長：**英語の“Fair”を「公平」と訳してもよろしいのでしょうか？

**西馬良和・別府中央 RC 会長：**私はアメリカに行ったことがあるので、アメリカの人々が、“Fair”という言葉をよく使うのを見聞きしてきました。

“Fair”という言葉の意味を知るには、まず第1に、「平等」との関係を知ることが必要です。「平等」に対しては、個人の能力の差を認めた上で、「公平」に扱うという言い方をします。第2に、その考えをさらに進めて、正義の観点から適切に扱うべき場合には「公正 (Fair)」にという言葉を使います。したがって、アメリカで「それは、フェアでない」といわれたら、恥ずかしいということになるでしょう。

ありがとうございます。素晴らしいお答えに、会場からも拍手が起こっています。

日本では、法律を英語に翻訳する仕事が進められていますが、日本の法令のすべてを検索してみると、「公平」という言葉は、法律用語としては、全く使われていません。そして、その代わりに「公正」という言葉が使われており、その英語訳は“Fair”です。

したがって、四つのテストに出てくる“Fair”の日本語訳としては、「公正」の方がより適切だということになると思います。

いずれにしても、日本ロータリークラブの訳を鵜呑みにする必要はないということだと思います。権威に対しても、批判的に考えることが大切です。

## 2. 正反対の考え方との対比

「四つのテスト」の意味を考える上で、次に、反対の考え方との対比を行いたいと思います。というのも、「四つのテスト」を現在の視点から読んでみると、「当たり前のこと」が書かれているだけだと思ってしまうからです。

しかし、ロータリークラブが成立した当時、そして、「四つのテスト」が作成された時代に思いを馳せるならば、この「四つのテスト」の意味がより一層はっきりしてくると思います。

そこで、「四つのテスト」とそれに対立する「儲けさえすればよい」という考えに立った「四つの正反対のテスト」を対比しながら、「四つのテスト」の意味を考えたいと思います。

| 正文（奉仕の理想と実践）     | 反対文（儲けさえすればよい）          |
|------------------|-------------------------|
| 言行はこれに照らしてから     | 言行はこれに照らしてから            |
| 1. 真実かどうか        | 1. 嘘も方便でよい。             |
| 2. みんなに公平（公正）か   | 2. 自由競争（やりたい放題）でいい。     |
| 3. 好意と友情を深めるか    | 3. 悪意と敵対（戦争）を招いてもいい。    |
| 4. みんなのためになるかどうか | 4. 私（あなた）のためになれば、それでよい。 |

この点について、ロータリークラブの設立の経緯に詳しい、権藤和夫・別府 RC 会長のご意見を伺いたいと思います。

**加賀山茂・日出 RC 会長：**ロータリークラブが設立された当時の職業倫理というのは、どのようなものだったのでしょうか？

**権藤和夫・別府 RC 会長：**ロータリークラブが創設された当時、すなわち、1905 年当時のアメリカでは、著しい社会経済の発展の陰で、職業倫理が確立しておらず、「儲ければそれでよい」という風潮がありました。

青年弁護士ポール・ハリスは、この風潮に耐えかねて、友人三人（石炭商、鉱山技師、洋服屋）と語り合っ、お互いに信頼できる「公正な取引」をして、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたいという趣旨でロータリークラブという会合を考え出したといわれています。

ありがとうございました。「四つのテスト」の意味を考える上で、ロータリークラブの設立の歴史に立ち返ることが重要であることがよくわかりました。

ところで、「四つのテスト」のうち、最初の文である「真実かどうか」というのは、かなり難しい判断を要求されますよね。

ここで、「真実かどうか」について真剣に向き合っられた壇上陽一・別府東 RC 会長のご意見を伺いたいと思います。

**加賀山茂・日出 RC 会長：**「真実かどうか」は、判断が難しい問題だと思います。

「フェイクニュースだ」と叫んでいる本人のツイッター自体が「フェイク」だったりするので大変です。「真実かどうか」を判断する上で、大切なことは何でしょうか？

**壇上陽一・別府東 RC 会長：**「四つのテスト」を提唱したのは、ロータリークラブの会員であったハーバート・テラーです。

彼は、1932 年にアルミニウムの会社の再建を任された際に、自社のアルミニウムが宣伝とは異なり、不純物が含まれている、すなわち、「真実ではない」ことを知りました。

そして、それを是正するために、「四つのテスト」を考案し、それを実践することを通じて会社を見事に再建しました。

ハーバート・テラーは、この功績によって RI の会長に就任しています。

この「四つのテスト」は、1943 年に RI によって採用され、事業と専門職における倫理について述べた最も重要な理念となっています。

ところで、人は、政府、国会議員を含めて、自分に都合の良い「ウソ」を言いますから、「真実かどうか」は、「言っていることと、実際にしていること」との間にギャップがないかどうかを足を使って調べる、すなわち、「裏を取る」ことが必要です。

ありがとうございました。さすがにその道の達人のお言葉ですね。

以上、ゲストを代表していただき、会長のお言葉をいただきました。それぞれのロータリークラブの会長の方々が、ロータリークラブに対する歴史、そこで使われている重要な用語とか概念に対して、いかに深い理解をされているかを実感することができました。

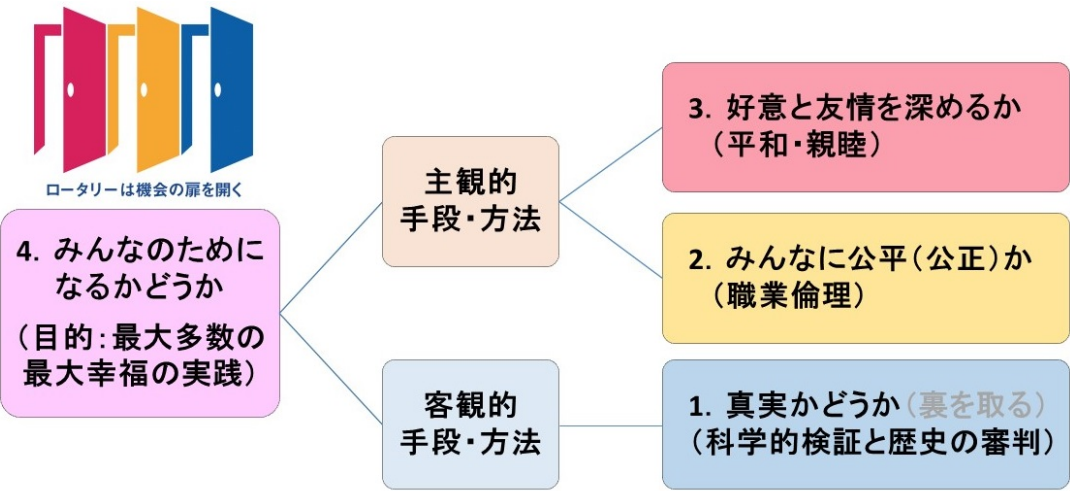
日出ロータリークラブの一人ひとりの会員も、ロータリークラブの歴史や重要な概念について学習を深める必要があることを胸に刻んだことと思います。

このように、一つのクラブでものごとを考えるのではなく、大分第三グループ（6RC）内での交流を盛んにし、お互いに学び合うことが大切だと感じました。

**3. 「ロータリーは機会の扉を開く」との対比**

それでは、最後に、まとめに入りたいと思います。これまで、「四つのテスト」の RI の原文、「四つのテスト」が生まれた当時の職業倫理と比較しながら、「四つのテスト」の意味を探求してきました。

最後に、「四つのテスト」の意味を、今年度の RI 会長のテーマである「ロータリーは機会の扉を開く」という「三つの扉」に即して、「四つのテスト」の全体構造をまとめたいと思います。



さて、「四つのテスト」を「三つの扉」に合わせて構造化するのですから、四つのテスト

のうちの一つを外に出さなければなりません。

ヒントは、第2文「みんなに公平（公正）か」と第4文「みんなのためになるかどうか」に「みんな」という言葉が共通している点です。

よく考えてみると、第4文「4. みんなのためになるかどうか」は、実は、四つのテストの最終目標（最大多数の最大幸福）であることが分かります。

そこで、第4文を「四つのテスト」を総括する目的として外に出します。その上で目的を実現する手段として、主観的手段と客観的手段とに分類します。

主観的手段は、三つの扉のうちの第1の扉（和らぎ・睦みの機会）と第2の扉（職業倫理の向上の機会）に該当します。すなわち、「3. 好意と友情を深めるか」、「2. みんなに公平（公正）か」です。

そして、客観的手段は、第3の扉（次世代に対する奉仕の機会）に該当します。すなわち、科学的検証と歴史の審判に耐えうる真実の探求としての「1. 真実かどうか」です。

このように、「四つのテスト」の順番を逆にたどることによって、「四つのテスト」の意味が明確になると思います。

すなわち、「4. みんなのためになる」という目的を達成するためには、まずは、グループ内で「3. 好意と友情を深める」とともに、「2. みんなに公平（公正）」になるように職業倫理を向上させて、「1. 真実かどうか」を常に吟味しつつ、奉仕の実践を行うことが必要だということになるのだと思います。

## おわりに

以上の質疑応答を通じて、「四つのテスト」（1. 真実かどうか、2. みんなに公平（公正）か、好意と友情を深めるか、4. みんなのためになるかどうか）の意味を、今年度のRI会長のテーマ（ロータリーは機会の扉を開く）の三つの扉とも関連させながら明らかにすることができたと思います。

今回は、ロータリークラブの最大の理念としての「ロータリーの目的」について、質疑応答を通じて、今回のRI会長のテーマ（ロータリーは機会の扉を開く）がどのようにして作成されたのかについて、その種明かしに挑戦したいと思います。ご期待ください。